



未来を担う子どもたちに 笑顔を

TOYOTA SPORTS CLINIC

トヨタ スポーツ クリニック

4

2025
(令和7年)

No.236

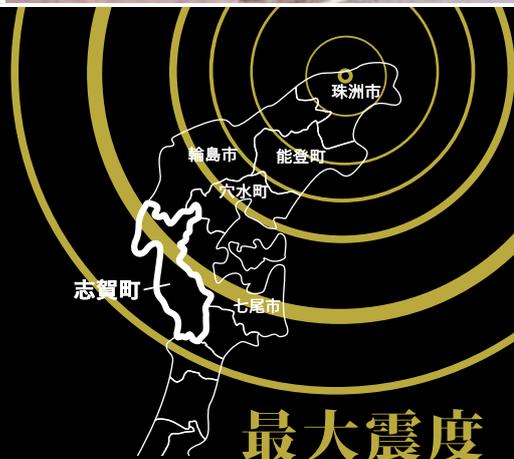


令和6年能登半島地震の記憶と記録 2〜7ページ



— 令和6年能登半島地震の記憶と記録 —

未曾有の災害をもたらした令和6年能登半島地震の発生から1年が経過しました。志賀町では、令和6年7月に策定した復興計画に基づき、復旧・復興事業を進めていますが、時間の経過とともに震災の記憶も薄れてまいります。この未曾有の震災経験が過去の出来事として忘れ去られることのないよう、未来を担う子どもたちの笑顔を守るためにも、記録として書き留め、後世へ引き継ぎます。



石川県内の被害状況 (令和7年3月11日時点)

被害区分		被害	備考
人的被害	死者	541人	うち災害関連死313人
	行方不明者	2人	
	負傷者	1,267人	
小計		1,810人	
住家被害	全壊	6,115棟	
	半壊	18,517棟	
	一部損壊	90,955棟	
	その他	11棟	
公共建物		443棟	※半壊以上
非住家		36,549棟	※半壊以上
小計		152,590棟	
ライフライン被害(ピーク時)	断水	約11万戸	令和6年5月31日 解消
	停電	約4万戸	令和6年3月15日 復旧

(出典：石川県災害対策本部調べ)

発生時刻：令和6年1月1日
16時10分頃

震源地：石川県能登地方
(震源の深さ約16km)

地震の規模：マグニチュード7.6

県内の震度

- ・震度7：志賀町、輪島市
- ・震度6強：七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
- ・震度6弱：中能登町
- ・震度5強：金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
- ・震度5弱：白山市、津幡町、内灘町
- ・震度4：野々市市、川北町

志賀町の建物被害 (令和7年2月28日時点)

※一次判定のみ

単位(棟)	全壊	大規模半壊	中規模半壊	半壊	準半壊	一部損壊	合計
住家	474	405	375	1,134	1,245	2,424	6,057
非住家	1,767	617	733	1,607	1,191	2,769	8,684
小計	2,241	1,022	1,108	2,741	2,436	5,193	14,741

志賀町の人的被害 (令和7年2月28日時点)

被害区分	被害	備考
死者	19人	うち災害関連死17人
重傷	19人	
軽傷	97人	

県内における被災状況

令和6年能登半島地震により、奥能登の輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、そして中能登の七尾市、志賀町の6市町を中心に、県内に甚大な被害をもたらしました。

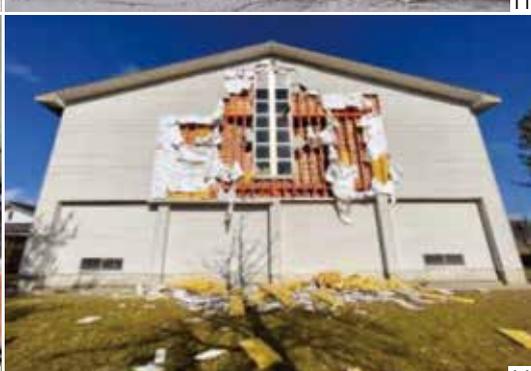
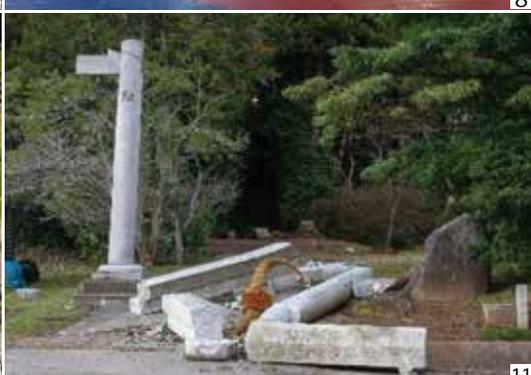
人的被害は1,810人、住家被害は115,598棟となり、水道、電気、通信などのライフラインが広範囲で寸断しました。

本町における被災状況

本町では、本震(震度7)と度重なる強い余震により、死者を伴う甚大な人的・建物被害が発生しました。また、地盤の緩みや地割れ、上水道の断水、土砂災害などが広範囲にわたり発生しました。

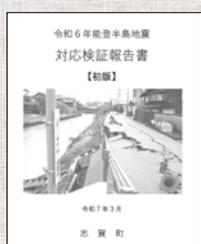
町内では、ほぼ全ての住家6,000棟を越える住家に被害が及びました。住家を失い、仮設住宅やみなし仮設住宅での暮らしを余儀なくされている町民が令和7年1月時点で530世帯にのぼり、このほか町外に避難している町民も多くみられる状況です。町が開設した避難所には、ピーク時において、約3,300人が避難しました。

各地区の自主避難所なども含めると、ピーク時には約1万人が避難。令和6年10月18日までの避難所を閉鎖しました。上下水道は、壊滅的な被害が



令和6年能登半島地震 対応検証報告書【初版】

この未曾有の震災経験が過去の出来事として忘れ去られることのないよう、これを記録として書き留め、後世への引継ぎとして残すため、「令和6年能登半島地震対応検証報告書」をまとめました。



- 1～4_ 町内の住家被害 5_ 断水で給水所に並ぶ人たち 6_ 町災害対策本部会議の様子
7_ 稗造交流センターの被災状況 8_ 総合武道館の被災状況 9_ 猪谷溜池の被災状況
10_ 赤崎漁港の被災状況 11_ 崩壊した高爪神社の鳥居 12_ 隆起した下水道マンホール
13_ 能登金剛の北側の大規模崩落 14_ 中核工業団地内若葉台体育館の被災状況
15_ 中核工業団地内工場の被災状況

発生し、町内全域の8,800世帯が断水に見舞われ、全ての断水解消までに2カ月を要しました。下水道では、路面から突出したマンホールが目立ち、管路の破損や閉塞から滞水した流れの悪い状況が今もなお続いています。

また、農地は、地盤の変形で作業が困難となり、農業継続を断念する農家も発生するなど、震災が日常生活や産業活動に与えた影響は甚大なものとなっています。

地区の集会所は、18地区から被害の報告がありました。中には甚大な被害を受け、全壊の判定を受けた集会所もあり、各地区唯一のコミュニティの場である集会所が使用不可能となっている地区があります。また、各地区の神社・仏閣も大きな被害を受けています。

— 令和6年能登半島地震の記憶と記録 —

令和6年1月1日に能登を襲った大地震から、1年が過ぎました。その時、小中学校・保育園・幼稚園の様子はどうだったのか。当時の様子を記憶する校長先生や園長先生方の震災手記を記録として残します。

※震災当時の役職を掲載しています。



避難所・志賀小での炊き出し（令和6年1月6日）



志賀小学校 校長
前田 倍成

志賀小には「志賀小助けルンジャー」なるチームが存在します。「いつ何時」に備え、非常時には真っ先に集合し、対応に当たる、いわゆる災害ボランティアチームです。毎年度はじめに募集し、校区在住の教員を中心に5、6人で結成しています。

震災直後、約千人もの避難者が押し寄せた際、地域の方が、学校を全面開放するよう教育委員会に談判し、許可を取り付けました。この時、学校を解錠したのは、いち早く現着していた「志賀小助けルンジャー」の一員です。

また、児童の安否確認にあつたのもこのチームです。地区の避難所、町外、県外の親類宅など、さまざまな避難状況があつたため、確認には時間を要しましたが、チームは根気強く連絡作業を続け、早期に児童全員の安全を確認することができました。

その後も、避難所開設に伴う物資対応、食事の提供、断水のため設置された簡易トイレの世話など、「志賀小助けルンジャー」は町当局、外部機関と連携し協力を惜しみませんでした。



志賀中学校 校長
徳楽 仁

元日の夕方、能登半島を襲った大地震。揺れが治まり、家族の無事を確認し、車で志賀中学校に向かいました。学校に着いた頃には、辺りはすでに暗くなつていました。学校は、火災報知器が鳴り響いていました。警報を止め、校内の見回りを行いました。幸いにも、建物自体の被害は少ないように思いましたが、ロッカーや棚が倒れ、さまざまな物が散乱していました。

翌日、学校に来ると、前日には気づかなかつた校舎周辺の地盤沈下に驚かされました。17年前に、本校が完成したときにも大きな地震があり被害を受けていましたが、わずか17年で再びこのような被害を受けるとは想像もできませんでした。校舎内外を歩き回り、被害状況を写真に収めました。1月2日には教職員の安否確認、3日には生徒の安否確認を行いました。幸い、教職員や生徒にけがなどはなく、皆無事でした。4日以降は、通学路の点検や復旧作業に当たり、学校が再開したのは予定より2週間遅れの1月22日でした。

今回の地震も、17年前の地震も、

いずれも長期休業期間に発生しました。もし授業中に発生したら、あるいは登下校中に発生したらどうなるのか。今回の地震を教訓に、さまざまな場面での大地震発生を想定し、学校や教員が果たすべき役割を再確認する必要性を感じています。いざという時に一人でも多くの生徒の命を守るために。



本が散乱した志賀中の図書室



高浜保育園 所長
山本 ゆかり

当園の被害状況は、保育室一室の床が下がり傾く、遊戯室の天井板の落下、園庭の土が数力所陥没する、新館とのジョイント部分の破損といった物でした。断水していた水道が復旧し、施設の安全確



令和6年1月22日に再開した高浜保育園

認をした上で、1月22日に再開となりました。余震の不安はありましたが、大半の保護者は仕事も再開していましたので、子どもたちも通常通り元気に登園してくれました。震災当日は休みだったため、子どもたちの避難対応はありませんが、もしもこれが通常の保育中だったらと思つと身が震える思いです。この地震を機会に、命を預かる大切さを今一度考えていくべきだと強く感じ、避難方法も職員間で再度確認し合いました。子どもたちも地震を体験したことで、大人の話を聞くことの大切さを感じてくれているようです。

物資の提供や、色々な方面からの慰問など、あらゆる支援もいただきました。今後も今回の経験を活かし、災害時には職員間で連携した対応をし、大切な命を必ず守っていきたいと思います。

すばる幼稚園 園長
新田 恵美子

未曾有の大地震。園児、家族、職員全員の無事に安堵した1月から、子どもたちが日々安心して過ごせることを願い、こども園として自分たちに来れることを全職員で模索し、進んできました。地震から2週間後、親子で集い、不安や怖さの軽減をと開設した「遊びの広場」、被災状況中、ご協力いただいたお弁当、友だちと遊び、笑い、一緒に過ごす喜び、久しぶりの給食に「あつたかい」と友だち、先生と食事をする日常の楽しさが子どもたちの笑顔に溢れていました。

物心両面からの温かいご支援への感謝に併せ、断水、仮設トイレ、いろいろな不自由を体験し、今までの当たり前が決して当たり前ではなく、どんなに幸せでも有り難いことを子どもたちと伝え合い実感した日々。

地震から7カ月、炎天下の中で工事が進められ、復旧、復興に向けて着実に動き始めています。

人と人とのつながり、温かいご支援からの学び、御恩は子どもたちがたくましく生き抜く力となり、次世代に受け継がれていくと信じています。

富来小学校 校長
松本 安雄

令和6年1月1日の能登半島地震で、相神の富来小学校舎は使えなくなり、本校は富来中学校舎で学校を再開することになりました。場所は変わりましたが、比較的早く富来地域内で学校が再開でき、本当によかったと思っています。

こうした災害時、ICTは貴重なツールとなりました。児童の安全確認はもちろん、オンラインで学年ごとに児童が話し合える場を設けました。これは児童の心のケアの一環になったと思います。

相神の小学校の体育館には被害がなかったため、関係各位のご尽力のおかげで、3月に卒業式を行うことができました。思い出深い場所から卒業生を送り出すこ



指定避難所の富来小に身を寄せる住民

とができたのはとてもうれしいことでした。

また学校には、たくさんの方の励みのメッセージやご支援をいただきました。中でも、統合前の富来小と同じ校名ということで交流したことがあった大分県の富来小から現在の児童のみならず、当時実際に交流した同窓生の皆さまからもご支援いただいたことにはご縁の重みを感じました。

特色のある学びの場が富来地域にいつまでも在り続けてほしいと思います。

富来中学校 校長
板岡 和之

発災後、津波警報が解除され学校へと向かったのは午後9時過ぎ。校舎内にはすでに百数十人を超える地域住民の人が避難されていました。住民の人たちはエアコンが設置されている教室で仮眠をとる準備をしていました。領家区長が現場の指揮を執っており、混乱する様子は見られませんでした。

学校としては、まず、生徒・職員の安全確認を急ぎました。幸い電話やインターネットが通常通り使用できたため、予想以上に早く

確認を終えることができました。正月三日明け、学校施設の被害状況確認を行いました。富来中は何とか授業を行える状態でしたが、富来小の被害は大きかったため、急遽富来小の機能を富来中に移転し、授業を再開することが決定されました。短期間での移転準備は大変でしたが、職員の「何とか授業を再開しなければ」の熱い思いもあり、計画通り移転作業を完了することができました。しかし、授業再開に伴い、避難住民の人は別の避難所へ移動してもらうことになり、移転準備中、何人かの避難住民の人から声をかけられました。「授業せんなんがに学校を使わせてもらってありがとう」、「教室が暖かくて本当に助かりました」など感謝の言葉をいただき、思わず自頭が熱くなりました。学校は1月25日、約2週間遅れで授業再開を果たしました。

開所するまでは、保育園の職員もそれぞれ配属された部署で物資の手伝い、避難所の感染症に留意してトイレ清掃や水汲み、炊き出し、などなど…。保育園の片付けや非常用品の整理など開所に向けて積極的に準備してくれていました。こんな時だからこそ、どんな時も愛想よく動いてくれたことをいろいろな人たちから聞き、皆から元気をもらっていました。改めて町内はもちろん県内外の人たちからご支援の心が次々届き、感謝の念に堪えません。



学び舎を共にする富来小児童と富来中生徒との交流会

とき保育園 所長
宮坂 静子

地震と津波の一報で穏やかな正月が一変しました。見通しのつかない開所の見合わせをマチコミメールで一斉送信はできたものの、電話の機種によって繋がらないことに不安がよぎり、四苦八苦しました。電話で子どもたちの無事を聞いて家族で過ごしていたことに安堵していましたが、当初は断水で乳児を抱えた人は即座に遠方に避難していた人もいました。内情は皆それぞれ大変だったと、後から知らされました。何をどうすることがベストだったのか反省の日々が未だに続きます。



未来を担う子どもたちに 笑顔を
TOYOTA SPORTS CLINIC

— 震災発生直後の支援から つながる縁 —

震災から1年後、「令和6年能登半島地震対応における共働を起点とする連携協定」を町と締結したトヨタ自動車(株)は、町内保育園児や小中学生を対象としたスポーツクリニックを開催しました。



どのスポーツクリニックでも、子どもたちの楽しそうな笑顔が溢れていました。

また3月4日(火)は、とぎ保育園と高浜保育園で、ラグビー部による運動教室が開催されました。ラグビーボールを持ちながら走ったり、ボールを転がして競争しました。

志賀町陸上競技場では、志賀ジュニア陸上教室と志賀中陸上部員の23人が、陸上長距離部OBでニューイヤースタッフで優勝経験のある藤本拓氏と菅谷宗弘氏から早く走るコツなどを教わりました。

志賀中学校体育館では、志賀中バスケット部の男女部員と富来中男子バスケット部員など約40人が、アンテグロリーグでオリンピックにも出場した栗原三佳氏や矢野良子氏から、バスケの指導を受けました。

3月2日(日)、志賀小学校グラウンドでは、志賀学童野球クラブや志賀中野球部員など約60人が、投球やバットの振り方のコツを教わりました。レッドクルーザーズOBの3人が指導し、社会人野球のアジア大会で銀メダルを獲得した福田康一氏も参加しました。

「#志賀町から未来へ」 「#震災復興」

志賀町や石川県では、貴重な被災地域の記録を収集し、今後の防災対策や防災教育に生かすため、皆さんが撮影した写真を募集しています。ご協力をお願いします。

志賀町では、3つの方法で写真を募集をしています。

Instagramにて

- ① Instagram(インスタグラム)で、撮影した写真に、ハッシュタグ「#志賀町から未来へ」「#震災復興」を付けて投稿してください。
- ② いつ／どこで／どういった写真か／写真に対するエピソードをお寄せください。

QRコードからアクセス▶



X (旧Twitter)にて

- ① X(旧 Twitter)で、志賀町公式アカウント @TownofShika をフォロー。
- ② 撮影した写真に、ハッシュタグ「#志賀町から未来へ」「#震災復興」を付けて投稿してください。
- ③ いつ／どこで／どういった写真か／写真に対するエピソードをお寄せください。

QRコードからアクセス▶



メールにて

- ① メール の件名に「#志賀町から未来へ」「#震災復興」と記載。
- ② 名前(ニックネーム可)／いつ／どこで／どういった写真か／写真に対するエピソードをお寄せください。
- ③ 撮影した写真を添付し(1人3枚まで)、メールアドレス kouhoushika@gmail.com まで送付してください。

石川県では、映像・写真を募集しています。

令和6年能登半島地震アーカイブ

震災の記憶・復興の記録



地震・豪雨に関する記録をアーカイブし、後世に継承県が収集した地震・豪雨の被害状況や復旧・復興の過程で得た教訓などが記された資料を Web 上で公開します。収集した資料は、今後の災害対策や防災教育などに生かしていきます。

映像・写真を募集します

災害発生時の映像、避難(生活)の様子が分かる写真など、地震や豪雨に関する映像・写真をお持ちであれば、ご提供をお願いします。
(1月29日からアーカイブ内で受付開始)



【志賀町に投稿いただいた LALABAA さんからの写真とエピソード】



退職後始めた散歩のコースです。夕暮れ時から黄昏時のことが多く、やはり散歩されている方やランニングされている方たちにも出会います。

永井荷風『ふらんす物語』の「ローン河のほとり」に出てくる描写「黄昏はやや薔薇色の光沢を失い、いずこからとも知れず青みがかかった色が添って来る」を思い浮かべて、フランスには行けないけれど、志賀町の米町川の夕暮れの景色だって素晴らしい！と思いながら散歩することもありました。さあ明日も頑張ろうと思わせてくれる、大切な時間です。



壊れた道路を目の当たりにすると、その風景の美しさがあります。早苗から黄金色に実るまでの色彩豊かな水田を裾野とする里山の景色、川に遊ぶ鴨の大家族。歩いて学校に通っていた子供の頃から変わりません。四季を敏感に感じさせてくれ、その時々を心を広々とさせてくれます。いかに大切な景観であるかがわかりました。

自宅と納屋が半壊ですが、納屋は公費解体していただき、家にはさよならをすることなく住み続けたいと思っています。